

常磐新聞

定部金貳錢 廣五號十二休日曜大祭  
 一ヶ月廿錢 告字詰一行刊祝日ノ翌  
 價郵税五厘 料五十錢 日刊

印刷所 本報印刷部 印刷所 本報印刷部 印刷所 本報印刷部

發行所 本報印刷部 印刷所 本報印刷部 印刷所 本報印刷部

電話 百四十四番

刊夕日五月九

世上の道

K I 生

世上を渡るは、薄氷を渡るが如く一瞬過失の憂目に遭ふ死生屢々人路の途上に障害するものである

此の死線を突破する人は非理何等苦情もなく超越的快樂を貪る事が出来る

併し延開それを誇つて呑氣の莊揚を探るが如き、拔殻魂の發揮は止宿すべきである

人間、生物たる以上老衰の果敢なむまで活氣充滿として働かねばならぬ

寄書

譬へ富裕者にしろ貧困者にしろ人生の踏む道は統一されて居る筈である

當、其處には富と貧と間隔はあるが、貧者呼ばず、膽力なきと云はず、富者呼ばず永却無變の傾倒なしと云はれぬ、之根氣の出働如何にあるからである尙人は何事も頓着なく、富者に忍従せず平坦な心情を交換するにある、亦、富者、貧困者を輕蔑無視することなく愛着心を以て交情の精氣ある事が肝要であらう、では如何なる者をも交錯し心情的取扱をなすべきかと言へば總べてを一体に取扱ふ事は困窮の行詰りである、其處には清爽掃蕪の人心を有する者言へ換へれば正直精勵の局面者に對する觀念である、然し、惡辯無智の輩を全然無能に呼び一蹴するが如きは當を得ぬ、之を善化に誘導し、専念柔和たる言語を使喚し寛六の深慮術を應用する事に歸結して行つたなら結局快哉を叫ぶ時の到來するを見出す事が出来よう、之が人生の華美を讚へらるゝが當然の視眼である、次に來るべき凡庸の鈍智者を或シヨットより起して冷汗流るゝとも伶俐頓智の浮袋を携帶せしめる程世人は濃眼情實を素向くる事を希望する(了)

洋食は 向上軒

一册の代金で 御希望通りな 五册の雑誌が 自由に読める

平町長橋町三五 川崎文庫 (母次次第規則書進呈)

平町車場新道通り 電話(五二二三番)

に鶴屋

電話百四十番

カクニ石鹼 壹個金十錢

●最良の品質 ●最低の價格

弊店謹製

常磐文藝

△もつたいない 背の夢生

もつたいないいやいやいか 若きおん身等夫婦よ おん身等はそのうら若き身 体して

人力車を走らすとは もつたいないいやいやいか おん身等の乗物の側を 垢じみたハンカチに包んだ 辨當函を抱いた 老ひ行きき労働者を御覽な さい

おん身等の此の車賃だけを 得んとして 終日働かして やつと得た賃金を握つて たよ〜と家路を辿るところだ

おん身等は車を下りてその お金で この労働者に一日でもよい 半日でもよいからほんとう に心から休む時間を考へて お呉れ

俺はおのゝき乍らそれを頼 むよ

屹度買ッテ戴ケル 確信アル値段

米松 (セメント) 各種 土、地、建、物

磐城建物株式會社

平町五丁目 電話五一七番

内科。外科。婦人科  
 デアテルミー×光線  
 花柳病科胃腸病科  
 松村病院  
 平町南町電話一〇七番

内科。外科。耳鼻  
 咽喉科。花柳病科  
 高久病院  
 平町田町電話五二三番

内科。外科。花柳病科  
 耳鼻咽喉科。婦人科  
 赤心堂病院  
 平町田町電話四七五番

大評判...大歓迎

天馬空を行く如き賣行

最高級「サク」萬年筆

何人も是非御試を乞ふ

平町三丁目 高倉萬年筆製造所

眞に是れ鬼に金棒!

耐火耐震耐久力の絶大なる 日本コンクリート鐵網

拔群優秀なる斯界の權威

磐城セメントを推奨す

最も經濟的に然も超越せる無比の良材 (施工説明書を進呈致します)

特約代理店 平町五丁目 久釜屋商店

電話 九番、一三九番

和洋銅鐵 金物問屋

東京 コークス値下  
 壹俵二付 壹圓卅錢  
 壹噸二付 三十三圓

弊鐵工場が瓦斯コークス販賣元を 委屬されて滿五週年に達した御禮 心にコークスの御買上が十俵に達 しまする毎に有聲座の一等觀覽券 進呈します

平町月見町 佐藤鐵工所

電話(二六三話)町見月町平

株式賣買中値

電話に金融致す

磐城銀行	五〇〇	五三〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	一一五	一〇五
磐城實業	五〇〇	四〇〇
磐城實業	三〇〇	二七〇
田村實業	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二四〇
同 新	一五〇	一八〇
百七銀行	五〇〇	五五〇
同 新	一一五	一六〇
七七銀行	一一五	九〇
郡山電氣	五〇〇	三七五
同 新	二五〇	一七五
只見川電	一一五	七〇
植田水電	一一五	一五五
好間水電	一一五	一三〇
磐城建物	一一五	五〇
磐城製菓	二〇〇	四〇
平信託	五〇〇	二五〇
磐城製菓	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二六〇
平製水	二五〇	二〇〇
好間軌道	五〇〇	三〇〇
入山新	三二五	一七〇
小田炭礦	二五〇	五〇
磐城炭礦	五〇〇	四一〇
同 新	二二五	一八〇
磐城セメント	五〇〇	六四〇
同 新	三三〇	四三〇
平運送	一一五	八〇

平町田町 電話三三三番 丸登株式會社 川添房二郎

### 王城炭礦を買収し 昨日起工式を舉行

#### 入山炭礦の大擴張

一ヶ年の出炭額廿萬噸 所有礦區を今回愈々買収する所となつたので昨四日起工式を擧げたが買収の礦區は地方優秀の炭質で埋藏量概算上層に於て約百五十萬噸四層層が約二百萬噸の由であれば一ヶ年出炭廿萬噸宛として向ふ十五ヶ年以上の繼續が可能な筈で同地方は之れが爲め再び舊時の賑賑を呈するであらう

### 水害金額三萬四千圓

#### 郡役所の調査結果

過般石城郡に於ける水害は其後郡衙にて調査の結果被害は割合に少なかつたと雖も被害面積は滞水の爲め收穫皆無となつたのが三町七反(被害見積金額二千四百七十二圓)同五割以上減收九町九反(同金額三千三百九圓)同三割以上五割未満は五十三町二反(同金額一萬三千卅八圓)同三割未満が百六十八町七反(同金額一萬五千卅一圓)に達して居ると

### 一蛾育獎勵

#### 學童に對して

石城郡箕輪第一小學校にては生徒に一蛾育を獎勵し夏季休暇中に飼育させたが本日品評會を開き成績に依つて賞與する由にて審査長と

### 常磐片々

先日一寸降雨続きで水が出たばかりに石城郡では三萬四千圓がフイになる

縣の治水政策が徹底的でないばかりにコンナ憂目を郡民は見なければならぬ

ナンニしてもしても土木の衝に當る課長様が東さんでは心細い

磐炭労働者中の最高貯金者の副食物は常に鹽ばかりだと云ふ

### 白井頭取歸平 農工銀行頭取白井博之氏は昨夜

來平本日山田村に病む下山田嘉七翁の見舞に赴いた

### 仲裁者現る

鷹崎鈴木兩氏 住職と壇家總代間に軋轢絶え間ない菩提院紛争問題は未だに其解決を見る事が出

### 世間すれした不良兒

#### 平署の黒表十指に餘る

平町は附近が炭礦に圍まれて居る影響が常に不良少年少女の跋扈甚だしく平署では是れが取締りを嚴にしたので一時全く閉鎖の状態であつたが取締りのゆるむに連れ最近又々出没し殊に驚くべきは未成年者の分際にて料理店飲食店等に入出し酒色に耽つた代金を踏み倒す等の悪事を働く者十四五名あり彼等の多くは流々轉々として世間擦れしたもので生つ粹の土地つ子は少く主にも家庭等の惡境遇の

### 交通取締

#### 伊藤署長訓示

平署にては本日午前十時から外勤巡查全部を樓上に集め伊藤署長より交通取締に關する訓示あり夫れより直ちに全町に亘つて交通取締の任に従つたが此日平第一菓子に應用します、それには御飯を取り出して井に入れ、この中へハラ／＼とクツ粉を御飯と半々位に振り込みまして兩手でこねます斯うしてこねておきますと御飯の形はなくなつて餅となりまして、それを布巾にとつて丸い一本の棒となり御飯蒸かせいろうでうむ



### 残り御飯で 即席のたもち

夏分はとうとう御飯が残り、くさりやすくて困るものですからお三時のお茶

### 大角力來る

平に三日間 北海道巡業中の東京大角力棚末山、常の花一行は平町に於て三日間興業をなすべく四日間寄り山科が先き乗りとして來平種々奔走して居る

### 不平受付

投書歓迎 理髮店の時間 過日の夜午後九時何分か過ぎに或る理髮店へ行つた處就業時間は九時限りだからと断られた然るに他店へ行くと此處では平氣で遣つて呉れたこんな徹底してない時間の制限は平町理髮組合の体面にも關する事であるからやめてしまつたらどうだ(客)

### 不平受付

石崎組合長の答 九時を過ぎまして十時頃迄も仕事を續けてゐますと十時頃に参いられた客を終へるには十一時過ぎとなり店を片付ける頃は既に夜半の一時近くになりましてこれでは徒弟も可愛相な爲めに九時と制限したのですが勿論銀行や會社とは違ふのですから常華客等からは是非都合上選つてくれと云はれた場合は其意に従はねばならないのです

せまじたらとりまして小口から二分厚さ位に切りクツあなかおきなで頂きます 酢の腐敗せぬ法 酢は腐り易いものですからなるべく入用なだけづつ買ふ方がいゝのですが、残つた場合はその中へ鹽を少し入れてよく振り回すをして冷たい所へ置きます

### 募集中 改修工を終る

役場に引繼 平町第三小學校の校舎に充つべき磐中舊校舎の改修は夏期休暇中に完了すべく工事中であつたが愈々完成し

### 募集 文藝其他一般投稿

平町役場に引繼を了したので一兩日中に改修した北側校舎を取敢ねず第二、第三の分校場とする筈であるが是れと同時に兩校の狹隘を感じて居た教室も緩和され

### 炭礦労働者の貯蓄思想

石城郡に於ける炭礦労働者の貯蓄思想が近來非常に發達を示して居る事は驚くべきで其貯金を調べて見ると先づ磐城炭礦に於ける十二月末日までの總額は實に貯金人數四千四百五十八人此金額十三萬五百四十七圓餘で一人平均は卅圓に達して居るが

### 最高額

は支柱佐藤信可の九百五十圓次ぎが建

分の寄附を仰ぐべく奔走中である

### 兩炭礦

共に規定の貯金額であつて此外郵便貯金や其他の方法に依つて貯金して居る額は素晴らしい額に昇つて居る事勿論である

### 水野氏息快方

石城郡長水野虎三郎氏子息進氏(七)は過般來腹膜炎にて高久病院の診療を受けつゝ、あ